千葉県こども病院広報 CHIBA CHILDREN'S HOSPITAL

かるガモ

第59号

https://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo

2023年〈令和5年〉10月

病院長あいさつ

病院長　中島　弘道

この夏は大変な猛暑でしたが、ようやく過ごしやすい秋の日々となり、皆様いかがお過ごしでしょうか?

子どもたちにとっては様々な行事がコロナ以前のように催されるようになり、久しぶりの解放感を味わっているのではと期待しております。

一方、病院ではなおもコロナ入院患者は絶えず、またインフルエンザほかのウイルス感染も流行しており、それらへの対応体制は油断なく継続しております。

ところで近頃インクルーシブという言葉を耳にしますが皆様ご存知でしょうか?

インクルーシブとは、多様な人々が、差別や偏見なく、尊厳を持って生活できる社会の実現を目指す考え方です。

当院では、インクルーシブな医療の実現に向けて、障害のある子どもたちへの支援、地域社会との連携の推進、長期入院患者の学習のサポート、経済的に困難な子どもたちへの様々な助成制度の案内、療育困難な家庭への支援と行政との連携などを積極的に進め、さまざまな背景を持つ子どもたち一人ひとりに寄り添った医療を提供できるよう努めています。

今後もさまざまな取り組みを進め、皆様とともに、子どもたちが安心して暮らせる医療と社会の実現に貢献していきたいと考えております。

病院経営について

事務局長　篠原　光

日頃より当院の運営に対しまして、格別の御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

今回は、病院経営について触れさせていただきます。

質の高い医療サービスを病院が継続的に提供していくためには、経営の健全化が不可欠です。病院の経営は、基本的に診療報酬を中心とした収益を得て成り立っています。収益がなければ、新しい医療機器の導入やより良い療養環境の整備等も難しくなってまいります。また、診療材料や医薬品など経費をいかに抑えていくかも重要なポイントです。

こうしたことから、当院でも従来から経営の健全化に取り組み、平成17年度から令和元年度まで15年間にわたり黒字決算を続けてまいりました。

しかしながら、近年は新型コロナウイルス感染症(臨時医療施設への職員派遣、コロナ病床の確保等)や物価上昇等の影響を受け、令和2年度から令和4年度まで3年連続の赤字決算となり、主な経営指標も悪化することとなりました。

特に、入院患者数は、令和元年度は延べ約5万2千人であったものが、令和2～ 4年度の年平均で約4万2千人と約▲1万人・2割減少することとなりました。

このような事態も踏まえ、当院では、令和4年度より新たに病床管理室を設置して、診療科の枠組みにとらわれない柔軟で効率的な病床管理を集中化して行うとともに、入退院支援については、入院が決定した時点から多職種の病院職員や地域の医療機関との連携を積極的に行い、早期の入退院・在宅移行が図られるよう努めております。

また、収支の状況を診療科、疾患単位まで分析できる原価計算システムを導入して経営分析に活用するとともに、経営の見える化に努めることにより各職員の経営意識の向上を図ることとしました。

さらには、医薬品、診療材料等の他の県立病院との共同購入や委託等の一括契約を進めるとともに、他の医療機関の診療材料等の購入金額を比較できるベンチマークシステムの活用による業者との価格交渉に努めるなどの費用削減を行うこととしています。

今後ともこれらの取組を進めることにより、病院一丸となって経営の健全化に努め、当院の機能を最大限に発揮できるようにしていく所存ですので、引き続き地域の皆様方の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

耳鼻咽喉科

1 氏名　2 出身地　3 こども病院の好きなところ
4 医者になってなかったら？　5 ストレス解消法
6 休日の過ごし方

皆様、こんにちは。

耳鼻咽喉科を紹介させて頂きます。

耳鼻咽喉科は、みみ、はな、のどを診る科です。一部、首の疾患も診ております。近隣の小児科や耳鼻咽喉科クリニックから、精査が必要な場合や、なかなか治らない場合、手術の相談をした方がよい場合等に、当科へ紹介を頂いております。

当科は新生児聴覚スクリーニング検査後の聴力精密検査機関となっています。聞こえは言葉の発達に影響しますので、生まれつき聞こえづらさがある場合には、早期に発見して補聴や療育指導を開始することが重要です。厚生労働省も"新生児全員に新生児聴覚スクリーニング検査を"と提唱しています。難聴の診断に到るには複数の検査を組み合わせて行うことが多く、何度か来院して頂く必要があります。片耳の難聴では、言葉の発達に支障は生じませんが、両耳の難聴では、言語発達への支障が懸念され、補聴や療育指導の必要があります。最近では補聴器も改良され補聴効果が高いお子さんも多くみられますが、補聴器での効果が不十分な場合には適応を認めれば人工内耳を検討します。両側高度・重度難聴がある場合でも、補聴器や人工内耳を介し音声を聴いて話すことができるお子さんも増えてきました。難聴のお子さんは0歳児から受診頂くことも多く、親御さんとともに成長の喜びを感じながら診療を行っております。

他にアデノイド肥大や口蓋扁桃肥大によるいびき、無呼吸や難治性中耳炎の相談も多いです。手術効果が期待できるお子さんでは、親御さんと相談の上、手術を行っています。成長発達に影響する疾患もありますので、かかりつけ医から勧められた場合には、是非受診して頂ければと思います。

1 **有本　友季子**（ありもと　ゆきこ）
2 東京都
3 スタッフの優しさやこども達のすばらしさを感じるところ
4 音楽や花に関係する仕事
5 音楽鑑賞
6 よく休み、よく食べる。読書や音楽鑑賞等

1 **外池　百合恵**（とのいけ　ゆりえ）
2 浦安市
3 スタッフみんながこどもファースト
4 保育士
5 お笑い鑑賞
6 ゆっくりする

1 **亀田　茜**（かめだ　あかね）
2 三重県
3 病院のあたたかい雰囲気
4 飲食店
5 寝る
6 家でアマゾンプライム鑑賞

1 **仲野　敦子**（なかの　あつこ）
2 流山市
3 皆が優しいところ。
4 教師
5 食べる。寝る。
6 料理、テレビをみる

内分泌科

皆さんこんにちは、内分泌科の紹介をさせていただきます。

ちょっと、とっつきにくい感のある「内分泌」ですが、「内分泌」系とは身体のネットワークのひとつです。その中心が「ホルモン」で、血糖や血圧、血液の塩分のバランスの調節、体の成長や成熟、生殖などさまざまな役割があります。内分泌科では、この「ホルモン」の作用を中心とした診療をしています。特定の臓器ではなく、「その疾患が全身にどのような影響を及ぼすか」「成人期以降にどのような影響があるか」ということを意識した診療をしています。また、成人の診療科とことなるところは、小児から若年青年までの間の身体の成長成熟に関する診療をおこなっているところです。対象としている疾患の多くは治癒をめざすというより、むしろ生涯にわたって向きあっていくタイプの疾患です。こどものうちから自分に必要なセルフケアを自立(律)しておこなえるようにサポートする体制を整えています。このうち「糖尿病療養支援チーム」は、糖尿病のこどもたちが自立(律)した糖尿病に関するセルフケアを獲得することを支援するチームで、医師、看護師、薬剤師、栄養士、チャイルドライフスペシャリスト、メディカルソーシャルワーカーで構成されています。毎月チーム会合し糖尿病教室などのイベントを開催しています。本チームの活動が評価され2020年度に県病院局より表彰されました。

今後とも、こどもたちや地域のみなさまのお役に立てるよう精進していきますので、内分泌科をよろしくお願いいたします。

1 氏名　2 出身地　3 こども病院の好きなところ
4 医者になってなかったら？　5 ストレス解消法
6 休日の過ごし方

1 **數川　逸郎**(かずかわ　いつろう)
2 千葉県
3 いろいろな職種が協力できるところ
4 航空機の技術者
5 空港に飛行機を見に行く
F1 をみる
6 海にドライブにいく、飛行機を見に行く　F1 をみる

1 **木原　牧子**(きはら　まきこ)
2 兵庫県
3 こどもが好きな人が多いところ
4 看護師、薬剤師、理学作業療法士
5 きれいな景色を見ること、音楽鑑賞
6 ピアノのレッスン、プラレールであそぶ

1 **鮎田　香子**(あゆた　きょうこ)
2 千葉県
3 他科の先生方と相談しやすいところ
4 カウンセラー、編集者
5 以前はひとり旅、最近はお散歩
6 積み木であそぶ

1 **山本　紘子**(やまもと　ひろこ)
2 東京都
3 アットホームな雰囲気
4 カフェの店員
5 映画鑑賞、スイーツを食べる
6 公園や図書館にいく

1 **柴　康弘**(しば　やすひろ)
2 茨城県
3 医療スタッフの関係性がよい
4 建築士
5 庭いじり
6 庭いじり

1 **阿部　茉衣子**(あべ　まいこ)
2 東京都
3 自然豊かなところ
4 ピアニスト
5 甘いもの食べる
6 水遊び

1 **皆川　真規**(みながわ　まさのり)
2 東京都
3 みんなが子どものために一生懸命なところ
4 国家公務員でしょうか
5 散歩
6 家庭菜園、草むしり

リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科はどんなところ??

訓練室が1階にあり、理学療法士常勤3名、作業療法士常勤1名、言語聴覚士常勤3名、非常勤2名が入院・外来でのリハビリを行っています。

理学療法

周産期から学童、成人移行期まで様々な障害を抱えた患者さんに対して運動機能、呼吸機能の改善を促すため動作や姿勢に対する訓練を行っています。ICU、NICU、HCUのハイリスク児への発達、哺乳、呼吸訓練を行い、訓練場面をご家族に見学してもらいリハビリ指導も行っています。歩行補助として松葉杖指導や補装具や車いす、座位保持椅子の作成の相談、助言も対応しています。

理学療法士は、生活に役立つ訓練の実践を大切にし、患者さんのその時期にあった適切な促しと支援を多職種と連携しています。

作業療法

入院・外来の患者さんの発達や日常生活動作での困難さに対して遊びや実際の生活動作、アクティビティを用いて支援を行っています。周産期から学童期の発達障害、運動器疾患などの幅広い分野で上肢の動きを良くするなどの粗大な身体の使い方だけでなく学校生活での指先の細かい動きの練習、遊びの幅を広げる環境や方法への助言も行っています。

哺乳や離乳食など嚥下、摂食障害に対しても食具の検討だけでなく、感覚過敏への訓練など患者さんに必要な訓練を行っているのが特徴です。

言語聴覚

外来診療を中心とし、主に難聴、口唇裂・口蓋裂の患者さんを対象として業務にあたっています。各診療科と連携して構音不明瞭、言葉の遅れ、吃音、嗄声、摂食嚥下困難などで困っている患者さんに対応しています。耳鼻咽喉科での聴力検査を患者さんの発達に合わせて担当し、口唇口蓋裂診療チームの一員としても哺乳摂食・構音・言語発達の分野を担っています。構音不明瞭や言葉の遅れへ保護者の方に言葉を伸ばす働きかけ方を助言したり、必要に応じて地域の療育・教育機関へのご紹介も行っています。

地域と連携しており千葉県立千葉聾学校や、千葉市療育センターやまびこルームとの間では情報交換会を定期的に開催しています。

患者さん・ご家族の方へ

リハビリテーション科では各療法士の視点から、チームでその子らしく成長していけるよう患者さん・ご家族をサポートしています。何か困っていることがあれば病院スタッフにご相談ください。

摂食・嚥下障害看護認定看護師

摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割は、お子さんが安全に楽しく食事や栄養を摂れるようにサポートすることです。

所属しているNICU病棟では赤ちゃんの哺乳の援助を行っています。

また、栄養サポートチーム(NST)、口唇口蓋裂診察チームがあり、摂食・嚥下障害看護認定看護師もチームの一員として活動しています。

藤岡　直子

NICU病棟での活動

NICU病棟には、生後間もない赤ちゃんが検査や治療のために入院しています。様々な理由でお口からミルクを飲むことができない期間が長くなると、お口への刺激が少なくなり、お口の周りやお口の中を触られることを嫌がるようになってしまうことがあります。

また、お口を動かす機会が少ないと、口や頬の柔軟性が低くなり、動きにくくなってしまうことがあります。そして、いざ飲めるようになっても上手に飲めなくなってしまうこともあります。そうならないように、歯が生えていない赤ちゃんにも、お口を触られることに慣れてもらえるように、口腔ケアやマッサージを行っています。

栄養サポートチーム(NST)の活動とトピックス

NSTでは、栄養状態がよくないお子さんや、栄養管理をしなければ栄養状態が悪くなることが見込まれるお子さんに対し、生活の質の向上、現疾患の治癒促進および感染症などの合併症予防を目的として、栄養管理にかかわる専門的知識をもった多職種(医師・看護師・栄養管理士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・事務職員など)がチームを組んで活動しています。毎週月曜日にミーティング・病棟回診を行い、その結果をNSTレポートとしてまとめ、栄養状態の評価や適切な栄養管理・指導・提言を行っています。当院独自の取り組みとして、疾患・病態に特化したプロジェクトチームを作り、適切な栄養管理に努めています。現在は"大腿骨頭すべり症"、"たんぱく漏出性胃腸症"の2チームですが、今後も必要なチーム作りを検討しています。

口腔ケアラウンド

当院のNSTでは、歯科医師と連携して入院中のお子さんの歯の健康を保つために口腔ケアラウンドを1回/月行っています。日頃の口腔ケアの確認やブラッシング指導、歯科治療が必要なお子さんのスクリーニングを行うなど、毎日の口腔ケアに活かしています。

お口の中には数百種類以上の細菌が住んでいて、乾燥しているお口の中では細菌の塊(歯垢)が作られやすくなっています。お口の中の細菌は、風邪ウイルスやインフルエンザウイルスなどを身体に入り込みやすくしてしまうはたらきがあります。歯垢の中には消毒薬や抗菌薬などの薬剤は入り込むことができないので、歯みがき(ブラッシング)をすることで歯垢を取り除き、細菌の数を減らすことが大切です。

うがいは、水分を取り入れることで一定の湿度が保たれ、お口の中を通じて入ってくる細菌やウイルスに対して有効とされています。うがいは頻回に行うことが大切とされています①朝起きた時 ②食後 ③外出前と帰宅時 ④のどが乾燥している時　気づいた時にぜひ行いましょう!

引用参考文献:吉田和市,徹底ガイド　口腔ケアQ&A　第2版,総合医学社,2014

GERMANY

ドイツ留学記

海老原知博 [Institute of Neurogenomics, Helmholtz Zentrum München
(前職: 千葉県こども病院 新生児科)]

皆さん、初めまして。ドイツ、ミュンヘンのヘルムホルツ研究所に留学している海老原知博と申します。この度、留学記を寄稿させて頂けることとなり、ドイツでの生活を楽しく共有させて頂ければと思います。さて、ドイツと言えば皆さんは何を思い浮かべますか?やはり、ビール、ソーセージ、プレッツェル、お城、などでしょうか。私も似た様なイメージでドイツに移住しましたが、旅行でなく生活を始めるとなると違う部分が目立って見えてきます。例えば、洗濯機の設定がやたらと細かいです。洗濯温度、脱水回転数の設定が必要で、モードには白物洗濯、色物洗濯、綿製品、シャツ洗い、スポーツ用品などがあります。洗濯物をきちんと分けて洗った場合、いったい何回回さないといけないかと思ってしまいます。最終的には手入れの簡単な洗濯物というなんとも万能な名前のモードで、インターネットに日本からドイツに移住した先人達が記載してくれている温度と回転数で固定されました。他には、肉はステーキやトンカツに使う様な分厚いものしか店頭には並んでおらず、細切れ肉のような薄いものが欲しい場合は、店員がいるお肉コーナーで頼んで切ってもらう必要があります。移住して早々は、近所のスーパーを開拓しつつ、ドイツ語で聞いてくる店員さんに英語でなんとか応答していると、「しゃぶしゃぶ?」と聞かれびっくりしました。どうやら、これも先人達が店員さんに薄切り肉お願いしますを、しゃぶしゃぶプリーズと言うと伝わる様に教育?してくれていたようで、この店は我が家の御用達となりました。書き始めるときりがないですが、ミュンヘンから写真を1枚共有させて頂き、今回は筆を止めようと思います。

海がないミュンヘンですが、街中のエングリッシャーガルテン(公園)の川には有名なサーフスポットがあります。

第22回 千葉県こども病院県民公開講座

内容 「こどもの健康と医療-こどもの健やかな未来のために-」
千葉県こども病院　病院長　中島弘道

「性の健康について語ろう! -思春期保健について-」
千葉県こども病院　こども・家族支援センター長　數川逸郎

日時 令和5年11月23日(祝)　13:00～15:00

会場 ホテルプラザ菜の花　本千葉駅(JR外房線・内房線)徒歩3分

定員 80名(申込先着順)

料金等 無料　**問合せ** こども・家族支援センター

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町 579-1　TEL.043-292-2111　FAX.043-292-3815